

安藤 竜一さん

45才
㈱安藤建設 代表取締役

私 が生まれた昭和46年の田中、洋光台地域は多くの宅地開発や公営団地の入居が始まり、開業直後の洋光台駅前では毎週のようにイベントが行われて子ども達の笑顔が溢れていました。一方でまだ開発がされていない地域も多くあって、雑木林、池や沼などで多くの友人と野遊びをしたことも楽しい思い出です。

子どもの頃に得た体験は貴重なものです。だからこそ、地元企業として何とか子ども達の後押しをしたい、陰ながら見守っていきたく活動をして参りました。

杉田小学校の児童が杉田梅から考案したキャラクター「ウメニー」との係わりは、ある日児童から、ウメニーを広げるためにウメニーを弊社の社員にして欲しいと依頼が入ったことが始まりです。当初私はあまり深く考えずに受入を

しましたが、児童の「杉田の街を元気にしたい」という思いを考えると一企業の活用では限定的なものにしかないと気づき、弊社から手放すことにしました。同時に、ウメニーが街の皆様にもっと愛されるように、リデザインを行い著作権などの問題も解決して誰もが使えるものとして生まれ変わってしまいました。

ウメニーは少しずつ定着してきています。児童が授業を通して直接地元の商店にウメニーを売り込み、限定ではありますが商品化されたこと、歌が出来たこと、様々なイベントが開催できたことは大変嬉しく感じています。この活動を通して杉田の児童が成長した時に磯子区を愛せる大人になってほしいと願っています。



河原 勇輝さん

32才/森在住
グリーンバード横浜南チーム 代表

海 を間近にし、円海山をはじめとした豊かな緑に恵まれている磯子区は、一方で、横浜駅や上大岡駅などにも近く、都会的な要素も程良く感じられます。田舎でも都会でもないバランスのとれた環境で、暮らしやすく魅力ある街だと思っています。



私は、この磯子で生まれ育ちました。ここで遊び、学び、仕事をし、会社を営み、5年ほど前からは、自社事業を通じて地域貢献活動に取り組んでいます。また、「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトとするゴミ拾いボランティア団体、グリーンバード横

浜南チームのリーダーも務めており、杉田駅～新杉田駅、屏風浦駅、井土ヶ谷駅の3エリア周辺で清掃活動をしています。こうした活動の中で気づかされたのは、人と人とのつながりの重要性です。地域を活性化し、新たな力を生み出すのは人のつながりにほかなりません。

また、グリーンバード横浜南チームでは4歳から60歳までという広い世代がともに活動していますが、このように多世代が交流することには、大きな意味があると思います。大人から子どもたちに伝えるべきものがあり、逆に大人にも、子どもの豊かな感性から得るものは大きいでしょう。

磯子の暮らしやすい環境を守りながら、人と人をつなぎ、世代間をつなぐ。その先には、さらに人が生き生きと暮らしを楽しむ未来が見えてきます。大好きな地元で恩返しする気持ちで、そうした未来に向けて、さまざまな活動に取り組んでいきたいと思っています。

磯部 将馬さん

19才/洋光台在住
磯子消防団第7分団所属

私 は現在、大学に通いながら磯子消防団の団員として活動しています。日頃から有事に備えて訓練を重ね、実際に現場に出動するほか、地域での火災予防の啓発活動もしています。お祭りのときに火事にならないように警備をしたり、年末には地域を周り夜警をしたりします。このような啓発活動は地域の方とコミュニケーションを取りながら行うので、顔を覚えてもらい、次に会うときに挨拶をしてもらうこともあります。地域の方はみな優しく温かい人が多く、とてもいい地域だと感じています。

小学生のときには少年野球チームに所属していました。監督やコーチを務める地域の方が、温かく、真剣に指導してくれました。いっぱい怒られて身体も精神面も鍛えられたので、今の自分の基礎ができました。そして、練習をしてい

た小学校の隣の洋光台北公園では自主トレーニングに励みました。他の公園でも友達と遊んだり、お祭りがあったり、今では、消防団の訓練を洋光台南公園で行っていたりと子どもの頃からたくさんの時間を公園で過ごしてきました。公園が多いところも磯子区の好きなおところ。

このような、自分が住み、育ってきた地域・磯子の火災を少しでも減らすために、この磯子の安心・安全が今後も続いていくように、一つひとつの訓練を確実に身に付けることを心掛け、「地域を守る」という気持ちで、これからも消防団の訓練に取り組んでいきたいと思っています。一緒に活動する仲間も募集しています！



大人が語る「わがまち磯子」

磯子で暮らし、地域のために頑張っている方、磯子から世界に羽ばたいた方...それぞれの「わがまち磯子」をテーマに寄稿していただきました。

松永 大介さん

22才/杉田小学校・浜中学校出身
富士通陸上競技部 リオ五輪・男子20km競歩代表 日本人初7位入賞

磯 子区制90周年おめでとうございます。私が磯子区に引っ越してきたのは今から15年ほど前になります。当時、小学2年生の私は、初めての引っ越しで、慣れない環境に寂しさや不安を感じていました。しかしながら、磯子区に住んでいる方々はとても優しく、通学途中必ず挨拶してくれる駄菓子屋のおばちゃん、雨の日に傘を忘れて歩いていたら傘を貸してくれた近所のおじいちゃん、そういった方々の温かさを感じ、私はすぐにこの場所に慣れることができました。

その磯子区の温かさ思い出させてくれたのは、平成28年のリオデジャネイロ2016オリンピック(20km競歩)への出場が決まってすぐのことでした。浜中学校時代の恩師である戸崎先生や地元の杉田商店街の方々をはじめとした多くの方が、私のオリンピック出場を喜んでくれたのです。商店街には応援フラッグが掲げられ、そして試合当日には杉田劇場でパブリックビューイングを開催して頂きました。試合は日本時間深夜2時30分という非常に遅い時間帯でのスタートでしたが、磯子区の多くの方々から杉田劇場に集まってくれたとうかがいました。

初めてのオリンピックという大舞台でしたが、「松永がんばれ、松永がんばれ」と言う皆さんからの温かい声援に後



押しされ、7位に入賞することができました。

この場では伝えきれないほど磯子区の皆さんには本当に感謝しております。応援してくださった皆さまの元気を頂きながら、これからも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

【上】オリンピック入賞報告。恩師の戸崎先生(右)、区長(左)。(磯子区役所)
【下】パブリックビューイングの様子

平野 みきさん

55才/洋光台在住
一般社団法人 re net 結 代表

私 が磯子区(洋光台)に両親に連れられ越してきたのは小学生の時でした。あたりは一面造成地と四角い団地、すぐ後ろに円海山を背負って緑豊かな土地柄でした。一番に印象に残っているのは当時は洋光台といえば駅に降り立つと養豚のかぐわしい香りがしていたことと、南風の日は



海風の潮の香りに包まれたこと。そしてなにより、もともと矢部野(※昭和45年まであった町名)に住まれていた方々の寛大な心と、各地から新しく移り住んだ人々の希望に満ちわくわくした明るいきががありました。

その後50年近くが経過して洋

光台にもいろんなことがありました。悲喜こもごもある中で、そのももとの心のありようが2代目3代目に引き継がれ、住民の「この土地で幸せに生きてゆこう」という思いをますます広く深く、強いものにしてきています。心の通じた仲間と共に、ここに地域コミュニティーカフェ「結café(ゆいかふえ)」を開きたいと思ったのも、この土地で「悲喜こもごも」を笑顔で包んでくださった地域の皆さんに感謝の気持ちを贈りたかったら、そして、皆さんが一瞬でも多く「ここに暮らして幸せだった」と思えるよう、一緒に考える場所がどうしても必要だったから。

「結café」では、日々つながり・進化する人々がお互いに見守り見守られ、手を差し伸べ合って楽しくさわやかな磯子の南風の中過ごしています。私たちはこんな場が磯子のまちにたくさん増えるといいなあと考えています。皆様も是非遊びにおいでください。